

タクシーチケットや職場での相談等

今後も継続してやっていく

(兵庫地連)

2012年6月9・10日 ダイヤル・タクシー何でも相談を2日間神戸市内で開きました。



全自交兵庫地連が、連合兵庫の協力を得て、6月9日、10日両日に「ダイヤル・タクシーなんでも労働相談」を神戸市内で開きました。

この「タクシーなんでも労働相談」開催のチラシを、タクシー乗務員向けに1千枚を作成して、同月5日から8日にかけて、東は尼崎から西は姫路までのJR、私鉄の主要駅20か所のタクシー乗り場で、兵庫地連傘下組合の役員18名によって、乗務員に配布されました。また、連合兵庫の「労働相談集中受付期間」の広報チラシにも、タクシー労働相談日を特別に掲載してもらい、連合各地域協議会を通じて、県内の各主要駅で2万5千枚が配布されました。

9日10時から18時まで、連合兵庫会館5階にて、北坂隆生委員長が電話の前で待ち、成田次雄書記長がJR元町東口にテントを設営して街頭相談の受け付けを行い、10日も10時から18時まで、電話受付は板橋一信副委員長が、街頭受付は成田書記長が行いました。



相談の内容は、「今まで取り扱いが出来ていたタクシーチケットが取り扱いが出来なくなった。会社はノータッチで、本人が直接交換してくるように言われた。それが嫌なら他のタクシー会社が変わったらどうだと言われた」「隔勤の相勤者が車両の点検、掃除もせず、出勤日数も非常に少ない。管理者に相談しても受け付けてくれない」などの相談や、乗務員の妻から「夫の勤めている会社の給与明細書が手書きで現金支給だ。度々間違いがある。

今頃、そういう会社があるのか。そこの会社には労働組合があるのかどうか」という相談がありました。今回のタクシー労働相談は3件で、街頭の相談は0件でした特定の産別のダイヤル相談は連合兵庫としても、全自交兵庫地連の「タクシー労働相談」のみで、タクシー関係の相談が賃金体系含めて一番難しいといわれている中で、こうした取り組みは2010年から年2回行ない、今回で5回目になります。今回も相談件数が少ない結果に終わりましたが、兵庫地連としても、今後も継続していく決意しております。